

優れている。猛禽類、大型哺乳類が代表的であるが、地域の食物連鎖を考慮し、爬虫類、魚類などの小型の脊椎動物や昆虫類などの無脊椎動物も対象とする。

食物連鎖については、事業特性等を考慮し、影響を予測・評価する上で必要なレベルまでの捕食・被捕食関係を把握する必要がある。

特に上位種は、移動性・変動性が大きいので留意が必要である。

上位性の具体例は、次のとおりである。なお、これらは一例であって、事業ごとに対象となる生態系にふさわしい種を選定する必要がある。

○環境のつながりや比較的広い環境を代表し、栄養段階の上位に位置する種

- ・哺乳類：キツネ、テン、イタチ
- ・鳥類：行動圏の広い種；クマタカ、オオタカ、ハイタカ等
河川環境での魚類食の種；カワセミ、ヤマセミ等
森林環境での動物食の種；フクロウ、アオバズク等
- ・は虫類：里山環境での動物食の種；アオダイショウ、シマヘビ、マムシ等

○小規模な環境における栄養段階の上位に位置する種

- ・昆虫類；池沼等での動物食の種；タガメ等

イ 当該生態系の特徴をよく現わす典型性

「典型性」とは、当該地域に広く分布している植物群落と動物により構成されており、当該地域に典型的であると考えられる生態系の性質である。

一般的には、食物連鎖における生産者や低次の消費者であり、植物やそれらを食する低次の動物で、生息する個体数は多い。

典型性の調査対象種は、地域の地形や生物相の分布状況を把握し、分布域が広く、生息個体数が多い、生物の分布域と生息環境との関係から特徴的であるなどの観点から選定する。

典型性の具体例は、次のとおりである。なお、これらは一例であって、事業ごとに対象となる生態系にふさわしい種を選定する必要がある。

○生物間の相互作用や生態系の機能に重要な役割を持つ種・群集

- ・多くの動植物種の生育・生息環境となるスダジイ林、コナラ林、ブナ林、ススキ草原等
- ・摂食などで食性に強い影響を及ぼすシカ等
- ・樹木の穿孔性昆虫類を捕食するキツツキ類等

○生物群集の多様性、生態遷移を特徴付ける種、群集

- ・植物：クヌギ・コナラ二次林に見られる春植物（カタクリ等）
：ススキ草原に特徴的な植物（マツムシソウ等）
- ・哺乳類：里地の森林を特徴付ける種；タヌキ等
- ・鳥類：山地落葉広葉樹林の種；ゴジュウカラ等
：里地落葉広葉樹林の種；ヤマガラ等
- ・両生類：水田や森林に生息する種；ダルマガエル、ヤマアカガエル、サンショウウオ類等
- ・昆虫類：クヌギ・コナラを中心とした雑木林の種；オオムラサキ、ギフチョウ等
：ススキ草原などに見られる草原生の種；ジャノメチョウ、ヒョウモンチョウ類
：池沼、湧水等に見られる種；トンボ類等

ウ 特殊な環境等を指標する特殊性

「特殊性」とは、地域においてまれな環境、自然性が高く脆弱な環境などに生